

令和元年度 第1回 宜野湾市子ども・子育て会議

日時：令和元年7月19日（金） 10：00～12：00

場所：宜野湾市役所 第3常任委員会室

出席委員：上地武昭会長、渡久山慎二委員、國場福太郎委員、谷成悟委員、谷畑誠委員、比嘉健委員、金城智子委員、仲田丘委員、知念徳子委員、大城周子委員、仲村義明委員、名嘉眞正明委員、甲斐達二委員、岡田洋代委員

欠席委員：砂川麻世委員

事務局：福祉推進部次長、指導部次長、指導課2人、こども企画課5人、子育て支援課4人、(株)沖縄計画機構2人

- 1 開会
- 2 事務局説明
 - ①子ども・子育て支援事業計画の概要
- 3 議事
 - ①第2期宜野湾市子ども・子育て支援事業計画策定に係る量の見込みについて
- 4 その他
 - ①幼児教育・保育の無償化について
 - ②今後のスケジュールについて
- 5 意見交換等
- 6 閉会

「子ども・子育て支援事業計画の概要」及び「今後のスケジュール」については質疑なし。

「量の見込み」及び「幼児教育・保育の無償化」については事務局から説明を行い以下のような議論が行われた。

1 量の見込みについて

A 委員： 資料 2-1 の 12 ページの放課後健全育成事業について、認可保育所は非課税世帯に対して補助があるが、学童には補助がないため入るのに躊躇する方がいる。6年生まで預けたいが低学年優先の定員のために預けていない保護者もあり、それは希望していないわけではない。その点も留意して実態に即した政策を考えてほしい。

事務局： アンケート結果からも学童の利用料補助に対する要望があった。アンケートの結果も踏まえ、算出方法があるのか検討していきたいと思う。県外でも高学年までの利用意向が高い傾向があるのか確認したい。

A 委員： 東京都の場合でも量が限られていて、行政から利用できる学年が条例で決められている区もあり、ニーズは高いと思う。

B 委員： 障がい児の見込みはどうなっているのか。

事務局： 今回のアンケートでは障がいの有無を問う設問は設けておらず、クロス集計や障がい児に関わる個別計画等で確認していきたいと思う。

B委員： 今年から障がい児の利用者が増え、保育所に入れない子どもがいる。できるだけ入所できるように考えていただきたい。

事務局： ニーズは年々増加しており、認可保育所にも協力していただいているが追いつかない状況である。今後、子育て支援課でも施策を検討していきたい。

C委員： 市内、市外の放課後等デイサービスの利用実態調査はしているのか。保育所や学童と併用しながら利用している子どももいるので、保育所や学童の整備はそれも加味した方がいいと思う。

事務局： こども企画課、子育て支援課では数を把握しておらず、担当は障がい福祉課となっている。計画策定時の検討委員会や作業部会には障がい福祉課も含まれているので、他の計画も勘案し、状況を確認しながら進めていきたい。

※量の見込みについては、事務局（案）の提案どおり、補正を前提とした値を県への一時報告とすることを委員から承認を得た。

2 ニーズ調査報告書（事前配布資料）について

A委員： ニーズ調査の自由意見はどのように反映されていくのか。

事務局： 自由意見については、そのまま公表する方がいいのか、ジャンル分けした方がいいのかご意見をいただきたい。記載内容はそれぞれの担当課にも配付して施策に反映していただきたいと伝えている。

I委員： 自由意見は、回答した保護者の立場からすると自分や他の方の意見がどうなったのか知りたいと思うので公表した方がいいと思う。就学前で、真志喜地区が真喜志地区になっている部分がある。

J委員： 31 ページ、349. %は 34.9%に修正してほしい。

事務局： ありがとうございます。現時点では精査段階で、外部公表は控えていただきたい。